



田んぼの土をすくってバケツに入れる子どもたち（丹波篠山市で）

田んぼの土運びよいしょ

丹波篠山京阪神の児童ら体験

都会の小学生に農作業の体験を通じて食の喜びや農村文化に触れてもらう「福の里農業小学校」が17日、丹波篠山市福住地区で始まった。

住民団体の福住地区まちづくり協議会などが実施

し、10回目。新型コロナウイルスの影響で、本格的な開催は3年ぶり。県立篠山東雲高校の生徒も協力している。

京阪神の児童21人が登録。この日は17人が、苗床に盛った土に均一に稲の種をまいたほか、ジャガイモの種イモの植え付けを行った。

また、家庭でも稲の生育を観察できるようにと、「バケツ稲づくり」にも挑戦。田んぼの土を入れて重くなったバケツを、子どもたちは重そうに持っていた。

今後、11月まで月に1回、

田植えや黒大豆の植え付け、稲刈りなどを体験する。家族5人で西宮市から訪れた「君(7)」は「土を触ったら気持ちよかった。面白い」と言い、母親のさん(37)は「都会ではこういう機会がないし、大人もリフレッシュになりませう」と話していた。

2022年4月18日

読売新聞